

## 卒業式「マスクなし」政府検討 月内に結論目指す

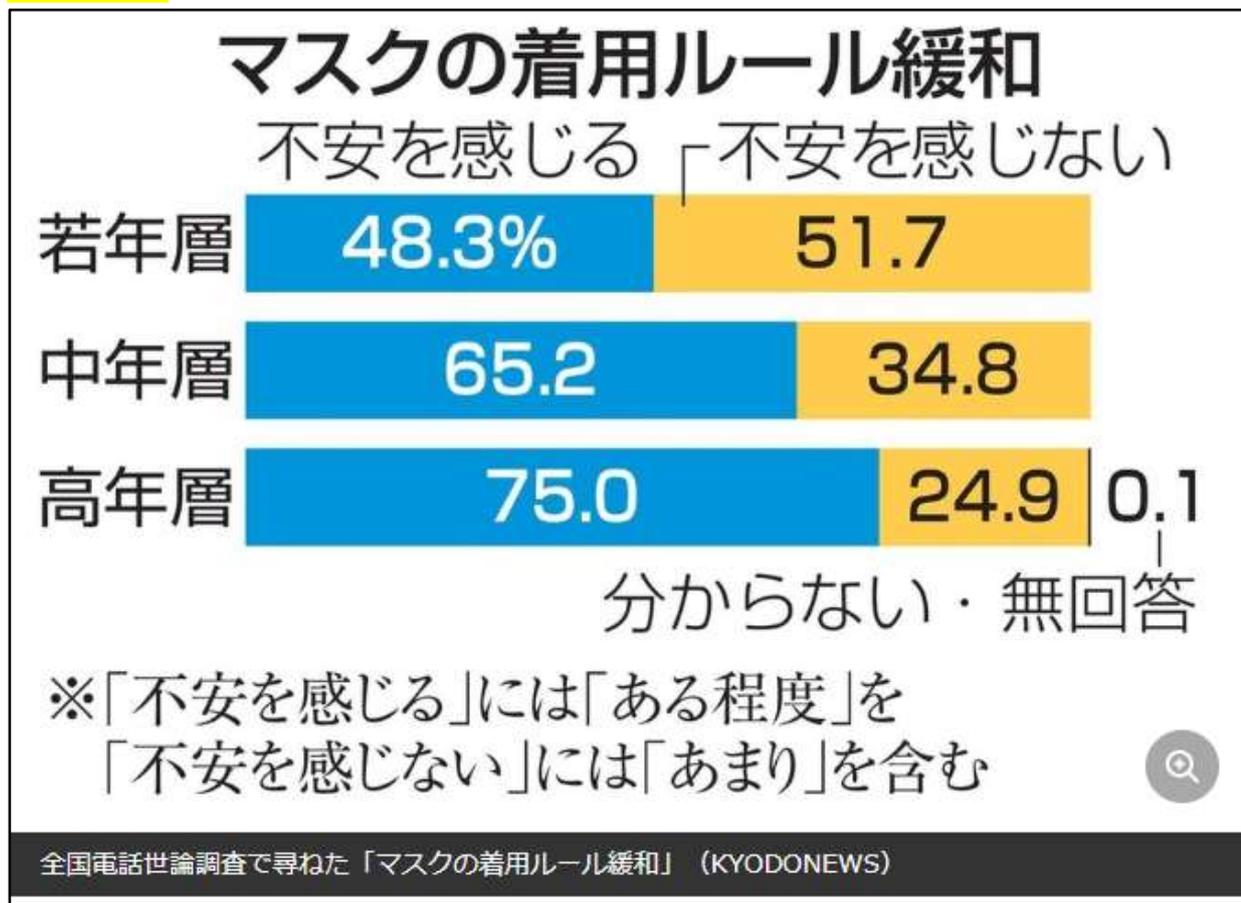
2/3 共同通信

新型コロナウイルス対策のマスクを巡り、政府が今春の小中高校などの卒業式や入学式では「着用を推奨しない」として外すことを可能とする案を検討していることが3日、関係者への取材で分かった。卒業式シーズンが迫っていることから、専門家の意見を聞き、今月の早い時期に結論を出す方針。

政府は新型コロナの感染症法上の位置付けを5月8日に「5類」へ移行するのに伴い、マスク着用は屋内外を問わず個人の判断に委ねる方針を決め、効果的な着用の場面を示すとしている。

特に中高の今春の卒業生は3年間をコロナ禍で過ごした生徒たちで、与野党からは5類移行に先行して学校現場の着用ルールの緩和を求める声が出ていた。文部科学省は、政府としてのマスクの在り方を踏まえ、学校現場に方向性を周知する。

関係者によると、卒業式や入学式の最中に児童生徒同士の会話はほとんどなく、感染リスクは高くないため、マスクを着用しないことは可能とみている。マスクを外すことは強制しない。



## 尾身会長、5類移行でも「電車内はマスク着用を」

2/9(木)産経新聞

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会の尾身茂会長は9日、東京都内で産経新聞のインタビューに応じた。新型コロナの感染症法上の位置づけを5月8日に現在の2類相当から季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げることについて「もうそろそろ社会経済

活動を再開していく時期に来ている」と言及した。焦点のマスク着用に関しては、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある人が乗り合わせる電車などでは「当分、マスクを続けた方がいい」と指摘した。

尾身氏は、5類移行後の医療提供体制を巡り、「地域での連携が重要になってくる」と強調。高齢者施設などでのクラスター（感染者集団）発生時に支援に当たる医療機関を事前に定める必要性などを訴えた。

政府は3月上旬をめどに医療費の自己負担などについて具体的な方針を示す方針だ。尾身氏は「(自己負担を)急にやれば混乱を生みかねないので、少しずつ段階的にやった方がいい」と述べた。

尾身氏は3年間の新型コロナ対応を振り返り、最も緊張した場面として、令和3年夏の東京五輪・パラリンピックを挙げた。専門家の有志は「無観客が望ましい」とする提言を発表した経緯がある。「専門家として言うべきことを言わないと歴史の審判に耐えられないと思った」と語った。

また、日本の人口当たりの死者数が海外と比べて少なかった理由として、国民の感染対策への協力や、保健所や医療機関の努力などを挙げた。